KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

中村俊定文庫
文庫 18
834

俗世のまことなるや、祖翁の
給をあけいたるのみさまを法
我身しらしらの世にはは特て
言葉にはしるしあるべしや
はしるしをたゝ其士に世道て
をゝ勤めよまつり給へ実

水田藩書
獨黃
水田藩書

よめて度宝なれ初しこの法王
老年の白髪をそへまきを
十三年のむかしこそ経
その花を花をさそひ見つ人の
後の世は一年を隔て花咲
大海招よ換へんとなりおの経

を年の導師よ屋を経
く拾ふなれば張能おなれ
し花を因に見人を待つ
ふるの花一のまて隔
て むかしの宮を
あまの帝子

雪保三年月
俳諧雪月誌

白梅舎蔵書

宗福寺所蔵図書

六日園記集

追善之俳諧

山雀の家ゝは墓の寂　應ゝ

百日忌の色さめぬ月　有月

ゝゝ黄ふ町の破のおゝまに　頌為

除夕　拙ゝ出て行　斗筵

小青の海山永へ云ゝ法　一蕙

中村俊定文庫

[illegible] 入[illegible] 快の[illegible]　葦
八月[illegible]　和工[illegible]　月
[illegible]　山伏の来る　應
書[illegible]ふ[illegible]　[illegible]　延
[illegible]の仕[illegible]　[illegible]中　[illegible]　為
[illegible]　[illegible]の[illegible]　[illegible]の月　蕙
地の[illegible]　[illegible]　[illegible]　月
[illegible]　[illegible]の[illegible]　應

[illegible]五六[illegible]　[illegible]中　延
[illegible]の[illegible]　[illegible]　為
[illegible]　無の[illegible]　蕙
[illegible]　[illegible]の[illegible]　月
[illegible]　[illegible]　二月　應
[illegible]訪の[illegible]　[illegible]　延
[illegible]　[illegible]　為
[illegible]　蕙

市ゝ蔦ゑとりの掛ふ角上　月
はるの下ゑてくの色ゝあるゝ　應
操姿の赤ゝ坊の撫　抒　延
側ゑるる模の行ゑ云ゝうち　系
染くさ社荷の掛ふ初雲　蕙
かゝ馬のたやゝ雪てある鶯古日ゑ　月
酒ゑ十ゝるの孤る篠　用　應
いさゝひよ簑も掛を引くる　延

雪ゝゝゝゝ世の起卧　系
浴柿ゑ中社生ゝ掛ゝ畑懐　蓮
社比雪の出来る　川　上　月
妹ゝゝる弱龜のちゝけ望　應
浸ゝの多ゝを掛口く　延
砧ゝも先を赤ふす花の咲ゝけて　系
市ゝ雀の赤ゝ社　ゝゝけゝ系　篠安

[illegible]雨の中[illegible]秋の雲　金令翁

時雨

きのふ来軒の蛙簑　大梅

月新西に[illegible]原宿ふる　桂雨

砂よりも中[illegible]の秋　爐扇

[illegible]つ[illegible]墓[illegible]の迫[illegible]　雉啄

くまるる[illegible]の[illegible]る十月　斗糸

山うけやまぬ[illegible]葉　金令翁

紅葉

月かゝるこのこゝろもの影さ　護物

[illegible]川のすゑまの魚よ札入[illegible]　叢

菜をたゝ[illegible]の[illegible]雇[illegible]也　露谷

かゝ[illegible]めよ[illegible]以[illegible]　春路

雪も[illegible]の[illegible]ふ[illegible]　叢

牛の舌の中の味のうちに助るもの　物

膳をしてうゝ書て仕合を　寛雅

扨ひるを始孫八郎よりする事　記

ゐるさめよりうゝ行　略

合鞍嘴て有るゝけの先へ来　谷

屁もむさゝぬ扨て少出る　物

うへるさぬ夢の餅うゝ流り　雅

事茶印つさ一坂の大日　記

待さへさけを乗れはあるゝ　略

鯨の鯉　扨ふゝ乗事　谷

草の多も志の清をものむ　物

ゆるさるのうゝ　相の芽　華

京雀に霊や蕎の一そよぎ　蕎虻

蛙蓮や二軒並んで草の中　一茶

菓のまに立きてくやし秋雨　播ヲ　寸三

人うけもうめぬ涼きや木槿花　紀ず　はな

いなの魚は塩ふりて彼岸ぶ　仙せ之

帰花折て涼め労猶のこり　菓也

夕うら枯や寂しつる故郷　京　千崖

○

咲すえて紅うるはしや蝦の花　奥　一具

蕎買うり礼いそまうる五月雨　汶草

門札を穿つ　ひてうる木槿垣　象代女

背柏うは　も　帰るや色の中　越後　東吟

事雨や波をうえうる松樹　李珉

玉川の水ふまてうるの鮎　万里

夕京の行さくくやハ百屋うせ　越中　貫名　奥

廉茂や早下して人をとめる宿（かゝ賀） 赤雄

見てそゝしい人の寒衣を尋るよりも　年孩

雪の嶽立久宮こゝる小こゝ　大常

○

雑の餅の話こゝまる紫苑哉　卓池

何処へ捨てゝ拾こゝきゝてゝ仕度（大成）　雄啄

子のゆゝよ月ハおはすのいこゝ人（任侠）　八朗

こゝそよ為こゝ波こゝや梅の香の川　蔓古

獨黄

雪こゝる比や栄の竹よつく　可厚

拾ふまゝのまゝハ花をこゝ形へ　叢

早ハ霞ぬきてこゝ春の旅こゝ　挹芝

野の立枝のこゝ尺こゝ流の春　白兎

嫁姑春こゝ つゝ揉焼こゝ　一桃

十三夜ハ傳こゝ春こゝ　壺半（上毛）

早人の月見よもるこゝよこゝ　鹿太

世こゝ春こゝ立の出こゝ 嫁の内　茅九

余の寄る所ふくしうの手こそ多
その戸や佛自よきらる事ゆゑ　阿字
形もいや屋きく旅の一ちのう　弱周
るうるうるうるうる考う　冥古多　嵐月
由すへもきくやうう餅の餅　風石
むしの寄附数を重へるゆゆ　素彦
数数を重ふふ痩る所うゆ　きゆ
川なるゆゆきつつ新うの　芭竹
　　嵐角

尺てのうるる人のるる柳うの角　弓雄
ようふふ絶て日事る多さ棒うゆ　常陸　涼谷
ふふ枝る所るおりしや蓮の色　三角
ようふの数ぬるも家を雀　弓香
弓吟ふ芝の自ふうるる沼　上総　皎雪
みうの事のうふゆるよるこ日の月　呼牛
干菜絡て陰ふく門や　沼を　牛呂
いゆうの家や法稜の事の川せうき　下総　雨塘

大海の[illegible]の春日うれ　鳩羽
草の戸を家なつかしの雨の笠　雉笠
初子の日松薪焚て焙けるや　碩布

○

[illegible]の秋の風　八葉
薪[illegible]のきぬはるの牧きうれ　鶯笠
白萩や時雨もるる紫のゝ[illegible]　麻交
ふる合の[illegible]も似る東[illegible]菊　右月

[illegible]多八菁下如来[illegible]うれ　丁知
[illegible]の[illegible]の[illegible]　禾葉
[illegible]や江村の[illegible]　得蓋
雨漏[illegible]移ふ[illegible]　惟草
[illegible]川の先[illegible]の花　鹿何
[illegible]市の灯[illegible]　抱儀
い形[illegible]や[illegible]の猫　長成
[illegible]月や中[illegible]ゆるはぎ草　久臧

おとゝの繁き古井つゝやきさの秋　春路
到染うゝ佛へ寄ふ彩酒茶　碩翁
仏とる秋はゝ日も移り雲の路　露谷
ゆゝ月雪や雪よゝ雲の山の中　一兆
うゝ法をけよ京ふゝ山後の月と雪　一霍
物まゝ乃秋雲の志ほゝや置蔓　如淡義
扇買よ魚を食ふ法や花川戸　素心

菓の花や不二の笠雲ゝてゝゆる　五陵
きゝゝゝまゝ久ゝの秋ゝ里ふ日ゝ　燒扇
芙蓉を待うけて鳴雀うゝ歌　平焉
動ゝゝて形ハ濡ぬよ萩の花　茶靜
萩はゝう咲きゝ法日中系　桂雨
みゝゝ夜を古ゝの人ゝ語ゝ　早老仏　寄松
笠の鴉よゝやふつゝや山の日　寛雅
鳴て夜　松よ寄ゝ　宋古ゝ　紫月

日和ぞ雪の雪　菊塢

霧の世もうつるまぬ色蓮　暁河

ひのけものやうくしく牛を松の霧　杜英

むつくりと名を公菊の道きくう　双湖

うのを蔵や乗の魚のうぼく鳥の紙　幸雄

元天竺きし　打之合をて菓の花　美山

ぶさくに霧を芳菊へまくれ　二木

きくに野や志くぶみのかつをき　女ちる

多入おく畑や志うれの古菓木　不知作者

ひうくに紙元もちぶやうめ乃色　李席

孫竜をうくに彩柴の霧行れる　荷乙

この景を孤をもものとき思ふ瓜　凡二

蘇くに門の子畑らさや夜の月　半歩

御志よ日ちくに志ぶや茶弱形　半丈

寺を出くに蔵のつをや家くを　ちる紀

新ぶ孫を茶をくぶもひを拾てを　升采

七夕祭りけのうそ事ぞ天の川　雨槿

あまぐもの通さぬすゑもあるか　岱霞

墓ばかり傳をとうとし十あまり　蓼莚

野路ていとゝ藤ばかりの秋　久米女

うちへ引くあるこゝろあるこゝろ　斗莚

枯ゝ川や蓮の花もなと痛　雄嶺

菓の実秋先へまるや経加子　應ゝ

手付白ハ行くこの露白ハ古ゝ

あるこゝ中さまつる仏のいまの母ゝ

手ゝ石ゝ藤ゝ

西高おもゝ墓おもゝ墓ゝ

ゝゝゝゝゝ　晩ゝ

ゝつゝ井　秋のゝ

秋ゝ

何ゝ水ゝ秋の京のゝゝ

ゝゝ水ゝ秋ゝ墓ゝ

ゝ月ゝハ秋ゝ墓ゝ

桐ゝ実ゝ秋ゝ

葉のゝゝ

つゝ老の坂ゝ

ゝ秋ゝ

十ゝ老余ゝ

塚のまへゝ　護物

年忌操法持の志をまもりける社長

扇子失ひ錄教をかなしみ

おきしろの身をの白くのふるまひ

なりしかよをかぬものを

月もうえ〻雪

揮うを出うすうす川

大梅

一蕙

草の戸社長や砂の立ち紙

ゆくちくく月のさし　ろう

秋さつる歩紙の茅をつく立て

かなおしよ口をきくふる

拾遺

抱寒のむすつまるしさや伯

校の陸の　ゆちくく　多

一蕙

蕙

有月

砂翁

浦戸ものゝ幕を張るゆのこと　月
うの四五月　仕合のよし　為
大魚を保護をつける人とうを　延
解体の聲をおゝる村〳〵　蓋
夏の月絣屋の息子儒うすう　意
女の実験　張る　涵も　月
湖のごとくとつくさよ　為
鳴るの表をゆる拍　灯　延

徒歩代つゝもれうを絣く　蓋
素うゆをつゝ柿の赤　意
乙をは庇をうを　素をうを　月
常をゝ洗ひは加　新出代　為
庇乃を入をを新ゝる日の赤を　延
ゝおをを八をゝいうち地　蓋
中〳〵をつゝ粋　粋の彩乃を赤　意
沙ををゝる　赤の大陸　月

[illegible]の[illegible]の[illegible]又[illegible]
[illegible]の[illegible]の出る解[illegible]　篠
手掛を掛[illegible]下向[illegible]　葱
[illegible]を[illegible]中の[illegible]の鶏　葱
[illegible]雨を[illegible]雪の月　月
[illegible]此[illegible]嫁入　糸
[illegible]の[illegible]の[illegible]　篠
二[illegible]の[illegible]和の[illegible]場　葱

奥筋[illegible]の[illegible]飯[illegible]　葱
[illegible]服[illegible]の[illegible]を出す　月
割[illegible]所[illegible]の[illegible]　糸
[illegible]八[illegible]の[illegible]　篠
[illegible]の[illegible]もく[illegible]元[illegible]雪　葱
菓[illegible]識[illegible]門の[illegible]　執筆

仕掛をそのひとまき　有月

京うしのこゝろふかくなるし
植もるものかゝく秋うせ　長成
山の月浪人をの出そゝ　月
技持をる祖父の心ぼそ　成
さうもあるまの義の古本　月
撰をゝ有ちうあるゝ　成

そゝ半ゝ丸後ゝの汁を美ふる色　月
り祝かゝゝをゝ人　物　成
市書ゝ如ゝの仕社事あゝ　月
着中の寝ゝ　ゆゝもかゝひら　成
うゝゝ拵ゝ　拵ゝゝれゝ　月
敷ゝ敷ゝ　鳩ゝ各のゝ　成
沾ゝ村運ゝ　ゝをゝ仕ゝ　月
柿ゝ義ゝ　人ゝうする　成

[illegible]の連行[illegible]の月[illegible]　月

みとしの春[illegible]大汐　成

相おきの出遠入[illegible]　月

[illegible]降[illegible]　成

掛[illegible]　〃

知[illegible]　月

[illegible]　成

[illegible]おほき[illegible]　月

[illegible]

[illegible]井の[illegible]　成

画[illegible]　月

[illegible]ゆ[illegible]　成

[illegible]つ[illegible]　月

一[illegible]　成

[illegible]　月

[illegible]　成

[illegible]　月

ISSEIDO
東京 一成会 神田

獨黄